

学校にドローンレース同好会

機体のカメラで障害物よける

娯楽としてのドローンは中高生にも人気があります。東京立正中学・高校(東京都杉並区)には、全国的にもめずらしいマイクロドローンレース同好会があります。2020年度にできたばかりで、高校生12人が操縦の練習に励んでいます。

ドローンのレースには、操縦者が機体に搭載したカメラから映し出される映像をゴーグルを通して見て操作するものや、直接機体を見て操作するものなどがあります。ルールはレースによってさまざまです。

活動は毎週月曜日の午後3時半から午後6時ごろまで。集まった生徒たちはドローンのコースを組み立てたり、バッテリーを確認したりして準備をします。準備を終えると、リモコンを操作してドローン



ゴーグルを通して機体の動きを確認します。6日、東京都杉並区の東京立正高校

を飛ばします。障害物にぶつかって落ちてしまうこともあります。

部長の佐藤公英さん(高3)は「障害物をよけながら飛ばすのは難しいですが、子どもから大人まで幅広い年代で楽しめるのが魅力です」と話します。

操縦を指導しにきているシステムエンジニアの松留貴文まつどめたかふみさんは「ドローンレースでは、大人より子どもたちの方が活躍しています。今年は大会に出られるよう、準備を進めた」と話しています。



障害物をよけながら、円の中にドローンをくぐらせます